

熱帯医学研究所ホームページ

<作成と特色>

熱帯医学研究所・環境医学部門・疾病生態分野

大渡 伸

(e-mail: ohwatari@net.nagasaki-uac.jp)

熱帯医学研究所のホームページの作成を1996年1月10日から始めた。当時、大喜先生（現在、九州大学）の教室で開設したホームページを見て、研究所のホームページの作成について田井村先生（環境科学部）と話し合ったのがきっかけである。作成に当たり、我々が注目したのは、来訪者に対する当研究所の案内書として、昭和52年から随時改訂し毎年発行されている「長崎大学熱帯医学研究所」である。

現在、当研究所は3大部門13研究分野2附属施設から構成されている。この案内書が無かったら、各研究分野からホームページの作成委員を選出し、各部門の意見を集約したレイアウトを決め、原稿を集める煩雑な作業から始めなければならなかった。この作業は、各教室の様々な事情があり、研究所全体のホームページ作成で、最も時間がかかり、作成後も不満が残る事が多かっただろう。更に大きな学部になると、ホームページ作成の成否は、この作業に左右されるのではないだろうか。しかし、各教室に作成も含め自由裁量とすると、未完成の教室が含まれ、作業は楽であるが、“作成中”の文字が散在する、穴だらけのホームページになってしまう。当研究所のホームページ作成が比較的短期間に出来たのは、案内書として発行されている「長崎大学熱帯医学研究所」の存在が大きく貢献している。

作成に当たり、「長崎大学熱帯医学研究所」の数ページについて田井村先生と共にレイアウトを決め作成し、後は我が研究所のホームページであるので、研究の合間に1人で行った。当時、本研究室の必要性から購入した、イメージスキャナ、文字読み取りソフト(OCR)を使用した。しかし、OCRの読み取りエラーが多く、約1/3はキーボード入力となってしまう、当時のOCR完成度は低かった。私にとって初めての経験でもあり、23頁にわたる文字と32枚の写真を入力し、校正するのに3週間かかってしまった。本年は、学生の全面的協力で更新ができた。また、伝送スピードに関する難点から、第1頁にキリマンジャロの景色を載せていたが外す事となった。

本研究所は、長崎大学の附置研究所で、熱帯医学の研究を行っている。発展途上国からの研修生（JICA集団研修コース）、熱帯医療従事者（熱帯医学研修課程）、医学部大学院生の教育も行っているが、研究が主体である。従って、各教室のホームページの内容は、現在の研究内容が主体となっている。また、熱帯医学の研究所であることから、熱帯地へ赴き現地で行う研究の占める割合が大きい。上記の点から、他学部のホームページと違いが出てくる。

写真でホームページの一部を紹介する。

- (1)1993年、分子構造解析分野が、熱帯性ウイルス病の資料と研究のための、WHO協力センターに指定され、1994年に行われた開所式典の一部である。
- (2)マラリアは、熱帯地で猛威をふるい、未だ3億人が感染し、100万から200万人が犠牲となっている。蚊が媒介し、日本では熱帯地への旅行者が感染し帰国する症例として見受けられる。この写真は、マラリアの研究を行っている、感染細胞修飾機構分野の研究成果であ

る。

(3)ケニア・クアレ地区で、寄生行動制御分野が行った、バンクロフト糸状虫症対策プロジェクトの原地調査である。現在、約9,000万人が感染していると推定されて、陰嚢水腫の症状が現れる。象皮病も近系の糸状虫症として観察される。

(4)蚊は、多くの熱帯病を媒介する。蚊の発生率は、その年の病気流行を推測する重要な指標となる。東南アジアで行われた蚊採取の様子である。

熱帯病資料情報センターには、専門分野でなくとも、興味深い多くの資料・標本が展示されています。是非、日本では唯一つの熱帯病研究所へ見学に来てください。

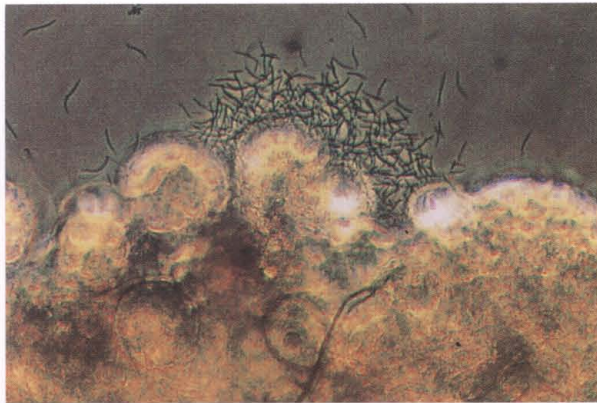
本ホームページの利用状況については、既にセンターレポートで紹介した。その特色としては、海外からのアクセスが多く、国内とほぼ同数のアクセスがある。e-mailで、熱帯地で医療活動を行っている日本人医師から、資料請求、検査・治療法の問い合わせや、中には日本への留学を希望する依頼が飛び込んでくる。また、アクセス件数から、研究・教育機関、一般インターネット利用者に次で企業、特に米企業からのアクセスが多いのには驚いた。更に、和文のホームページに、海外からのアクセスが多く、熱帯地に長期滞在する日本人が、熱帯病に対する予防や知識を得るために、情報を集めていると考えられ、多くの詳細な熱帯病の情報提供の必要性が痛感される。

いまや、インターネット通信の中でWebは、「インターネット放送」として一大産業となり急激な変化を示している。大学や研究機関からのWebは、利益追求で無い点で異なるが、情報内容の質により淘汰される段階に入ってきた。Webには、放送のように免許や規制が無いが、その影響力を考えると、質の向上に留意しなければならない。

当研究所の附属施設である「資料室」が廃止・転換され、昨年「熱帯病資料情報センター」が新設された。これまでの、資料・標本の展示に加え、インターネット通信による情報の収集・解析・蓄積し情報提供を行う。現在、コンピュータおよびそのシステムの構築作業に参画している。1年半前にホームページを紹介した時、インターネットによる情報提供を予想し、情報提供の構想について一部紹介した。しかし、コンピュータ性能の進歩は目覚ましく、その機能拡大によりシステム構想は改善されている。現在、最先端の技術を駆使した、情報提供を目指しているので、完成時には、是非ご一覧下さい。



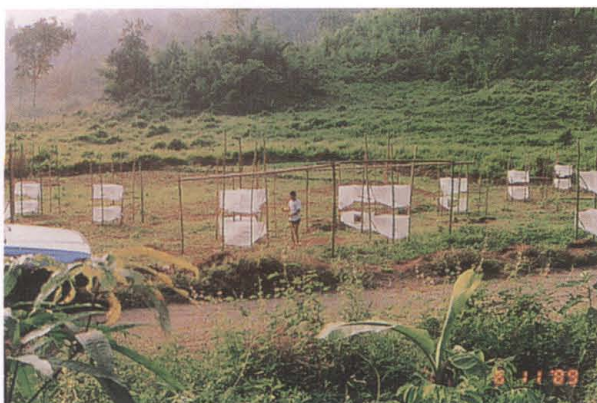
WHO ワークショップ



ハマダラカ胃外壁にみられるマラリア原虫のオーシストとそれが破れて遊離中のスポロゾイト



ケニア・バンクロフト糸状虫症対策プロジェクト：仔虫検査の為の夜間採血



蚊を採集するためのラムプトラップ